

講義録

横浜市立大学学術情報センター市民講座『地域通貨の可能性～”ひと”と”まち”の再発見～』
第二回 平成 14 年 11 月 14 日

地域通貨ゲーム（ワークショップ）

講師：川浦康至 横浜市立大学国際文化学部教授

1. 対人メディアとしての地域通貨

- ・コミュニケーションや対人関係の形成には「きっかけ」が欠かせない。
- ・きっかけのひとつとして、地域通貨を位置づけることもできる。
- ・地域通貨の地域は「地域」に限らない。

2. ゲーム

- ・地域通貨が人と人との助け合いの媒体（きっかけ）になりうる可能性を実感する。

A. 助けられ上手・助け上手体験ゲーム（さわやか福祉財団）

- (1) 6～10 人程度でグループを構成する。
- (2) テーブルにカード(150 枚)を並べる(カードは 50 種類あり、同じ内容が 3 枚ずつある)。
- (3) 「自分にしてほしいこと」「自分がしてもらいたいこと」が書かれているカードを、各自 5 枚選ぶ。
- (4) 5 枚のカードが選び終わったら、グループ内の他の人に見せながら、「これをしてくださいませんか」と交渉する。できるだけ多くの人と交渉するようにする。
- (5) 該当者が見つかったら、その人にカードを手渡す。
- (6) 5 枚のカードがすべて誰かの手に渡るよう、上記の(4)と(5)を繰り返す。
- (7) ゲーム終了後（グループ内の人全員渡し終わるまで、あるいは一定時間たったら）、ゲームの感想を話し合う。

< 助けられ上手・助け上手体験ゲーム 出席者の感想 >

- ・助ける人、助けられる人に分かれてしまった。
- ・助け上手、助けられ上手のどちらがいい（人として素晴らしい）のかは一概に決められない。
- ・項目によって質（時間のかかるもの、金額のかかるもの）が異なり、やすうけあいができないこともあった。

B. 地域通貨体験ゲーム

- (1) 6～10 人程度でグループを構成する。
- (2) 登録用シート（緑色）に、自分ができること（提供します、こんなこと出来ます）、自

分がしてもらいたいこと（提供してください、手伝ってください）「ひとこと PR」（説明やアピールしたいこと）をそれぞれ5件まで記入し、合わせて「希望価格」も記入する。希望価格の単位は今回「マリン」とし、額は1回あたりの単価とする（1マリン=1円ぐらいの感覚）。

(3) 記入し終わったら、登録用シートを他の人に見せながら、「これをしてくれませんか」と交渉する（価格の交渉も含めて）。あるいは「これやりますよ、いかがですか」という交渉も行う。交渉が成立したら、バランスシート（白色）を交換し、取引内容を記入、受取欄ないし「支払」欄に額を記入し、残高を計算、記入する。最後に、「サイン」欄にサインする。できるだけ多くの人と交渉するよう、心がける。

(4) ゲーム終了後（グループ内の人全員渡し終わるまで、あるいは一定時間たったら）ゲームの感想を話し合う。

< 地域通貨体験ゲーム 出席者の感想 >

- ・標準価格がある方が取引しやすい（やってほしいこと、やってもらいたいことの価格一覧表など）。
- ・現在、職業やアルバイトとして成立しているもの（例：伝票整理など）を地域通貨で扱うのはどうだろうか？
- ・個人個人の価値基準によって、取引の総合計が黒字であることが望ましいと考える人もいれば、反対に赤字であることが望ましいと考える人（ボランティアに積極的な人）もいるのではないか。
- ・市場財として成立しないもの（「キャベツの千切り」）を扱う方が面白い。
- ・コミュニティが小さいと、同じような要求を持った人たち（似たもの同士）が集まり、流通が停滞する可能性がある。
- ・仕事に価格をつけるのではなく、代わりに何か他の仕事をしてあげる（例えば、洗濯をしてもらい代わりに掃除をしてあげる）“仕事と仕事の交換”が理想的なのではないか。

3. 地域通貨における心理学的な問題 < まとめ >

- ・自分はまわりの人に何をしてあげられるのか、逆に何をしたいのかということによって、個人個人が自分自身の再発見につながっていく。
- ・地域通貨の活動を通して、「自分のまわりにはこんな人がいるのだ」という“コミュニティの再発見”ができる。
- ・市場で扱っていないものを取引することも、「地域通貨」の大事な役割である。
- ・サービスリスト（give and take）は必要だが、プライバシーとのバランスで作り方が難しい（自分の困っていることや家庭事情などが他人に分かってしまう）。
- ・ゲームはほんの数十分のやりとりなので、地域通貨の残高に偏りが出てしまう。しかし、長い期間、多くの取引がなされるようになれば、誰にも「してほしいこと」「してあげられること」がある以上、偏りは小さくなると考えられる。

現実に行われている地域通貨は必ずしも活発とは言えず「気持ち」だけではうまく流通しない。課題は山積している。

【参考書など】

- ・西部 忠 2002 地域通貨を知ろう（岩波ブックレット 576） 岩波書店
- ・(財)さわやか福祉財団 2001 近隣助け合い体験ゲームキット （連絡先 03-5470-7751 <http://www.sawayakazaidan.or.jp/chiikitsuka/>）

<後記>

「何でもお金で買える」と言われている今こそ、“地域通貨”などを通して人との触れ合い、助け合いの大切さを知ることが必要なのだと思います。今回の講座ではゲームが盛り上がり、ゲームの中だけではありますが、その日に初めて会った人に何かしてあげたり、してもらったりという交流や、自分は助け上手なのか、助けられ上手なのかという性格の発見といったものを垣間見ることができました。あらためて“困った時はお互いさま”なんだなと感じ、普段はあまり気にしない、触れ合い、助け合いというものをちょっと立ち止まって考えるいい時間になりました。

（STAFF： 関澤 仁陽 湯 玉梅 ）